



技術の支えは人

愛知電機株式会社
取締役社長 **木野 文海**

当社の経営基本方針『積極経営』『技術錬磨』『人間尊重』は、会社創立以来の「和と協調」の理念に基づき、明文化されたものである。このうちの『技術錬磨』については、「蓄積した技術・技能の伝承と活用を進めるとともに、新しい発想で先端技術の研究開発に挑戦し、より安全で信頼され役に立つ新製品を開発して、顧客の要望に応えるよう技術錬磨をはかる」という内容である。

当社の技術開発の成果とその水準を世に問う手段として、愛知電機技報が発刊されてからまもなく20年になるが、社会があらゆる面で加速化、高度化、複雑化、グローバル化したうえに、環境対策の重視、欠陥品に対する批判の高まりなどの状況変化が起っているので、この巻頭言において、『技術錬磨』について付言する。

まず第1に「モノ作りは人づくり」である。

企業は人なり——と云うが、社内の人材育成は次の成長を導く源である。当社は社員の年齢構成に大きな歪みがあり、さらにこれから派遣社員の増大、少子化の影響の顕在化等が加わるので、持続的な人材育成がますます困難になると考えられる。

- ・働きやすさを創る
- ・改善を促す職場づくり
- ・研究者の能力をいかす環境整備

等の施策を強力に推進して、社員一人一人の技術革新に対する意欲を増大させ、全員が常に研究・開発・改良の一翼を担うとの気概を持たねばならない。

第2は「社会に役立つモノ作り」である。

社会が求める事業が企業の価値を増大させるのである。そのためには、情報の収集を活発に展開してお客さまニーズを把握するとともに、多くの人の知識の集積、特に技術の異なる分野の人々の協力を得て新技術・新製品の開発に努めねばならない。そして積極的な営業を展開し、企業ブランドの信頼を獲得しなければならない。

第3は「競争に勝つモノ作り」である。

コストあるいは品質で優位でなければ製造・販売の価値が認められないのである。そのために、先人の残した貴重な技術を確実に伝承し、そのベースに新しい知識を複合させ、蓄積して、常にイノベーション(技術革新)に努め、勝者であり続けねばならない。

そして、これらを実現するための原点は「技術の支えは人」という理念である。